

# Cutting-edge Bio-seminar 11

## これからの皮膚科学：皮膚の内外どちらも大事

化粧品、消費財、食品、医薬品業界の研究開発ご担当者必見！

多様性を重視し、世界に羽ばたくedgeの効いた方々をお招きするシリーズの第11弾。今回はヒト最大の臓器であり体の内外から影響を受ける皮膚の科学の活用と課題、今後の展望について討論したい。化粧品 食品 製薬分野以外の分野からも課題提起歓迎。

**開催日時：2025年 5月30日（金） 15時～16時40分**

セミナー形式：Zoom（定員500名）

主催：(一財)バイオインダストリー協会 協賛：日本生物工学会（予定）

**Coordinator：新城 雅子氏（奈良先端科学技術大学院大学 客員教授）**

**15:00～15:05 はじめに**

**15:05～15:45 これからの化粧品・化粧品原料の有用性評価**

～ Evidence based cosmeticsのための取り組み～

**岡野 由利氏（株）CIEL**

(株)CIELは化粧品や外用剤に配合される成分や最終製剤の皮膚に対する作用に関する技術コンサルティングを業務としている。現在、化粧品業界においては動物実験を実施しない方向が主流となる中、どのようにしてヒトの皮膚に対する作用を前臨床評価において検証するかというのは大きな課題である。演者らは従来、単層細胞系、多細胞のコンビネーション系および三次元培養皮膚モデルを用いた系を用いてEvidenceを得るべく検討を行ってきたが、近年、皮膚の機能は、皮膚を構成する細胞、さらに基質とのクロストークによって制御されているということが報告されるようになった。そこで我々はヒト摘出皮膚を用いた実験施設をフランスに設立して検討を開始した。本会では我々が普段使っている評価系を比較解説し、目的によって評価法を使い分ける方法について紹介させていただく。

**15:45～16:25 これからの化粧品の必要条件**

～ 美肌は健康なマイクロバイオームとともに ～

**柴垣 奈佳子氏（株）資生堂 みらい開発研究所**

自然界のいたるところで目に見えない微生物が働いている。ヒトの身体も例外ではない。皮膚では複数種の菌が生態系を構成しておりスキンマイクロバイオームと呼ばれている。本来は、健全な皮膚の状態を維持するために貢献する皮膚常在菌であるが、状況によってはトラブルの原因にもなり得る。演者らは基礎研究によって、望ましい皮膚常在菌と皮膚との関係を明らかにしつつ、その関係を乱さない、あるいは修復するような化粧品を開発していくことが必要であると考えている。具体例として、敏感肌の皮膚常在菌叢研究を紹介したい。

**16:25～16:40 クロストーク**

**これからの皮膚科学・スキンケア：課題と評価系、先端技術と産学連携**

皮膚の内と外からの影響、経口摂取からの影響

肌特性及びマイクロバイオームの個人差・年齢差・地域差

「本当に効く」「well-being」「サステナブル」「使いやすい」スキンケア

**参加費無料、公開**

**Zoom参加：JBAホームページよりお申し込みください。**

**締切：2025年 5月28日（水）**

**お問合せ：(一財)バイオインダストリー協会（担当：矢田、中戸川、北嶋）**

## 講師紹介

### 岡野 由利氏

(株) C I E L チーフコンサルタント

岡山大学理学研究科にて反応有機化学で修士課程修了後、化粧品メーカーに入社。基礎化粧品の処方開発を経たのち、基礎研究部門に異動。その後、スキンケアに限らず、メイクアップ、ヘアケアなどさまざまな領域の有用性原料開発と評価に従事。その過程で原料あるいは最終製剤の有用および安全性評価業務を経験した。その後原料メーカー、製薬会社に移った際も、一貫して有用性および安全性評価業務に従事。

2013年に皮膚をターゲットとした評価ラボを併設した技術コンサルティング会社を設立。2019年にフランスにヒト皮膚を用いたEx vivo試験専門の日仏企業の合併会社SOLA S.A.Sを設立。

2003年に京都薬科大学にて博士号を取得。

IFSCC 2009にて最優秀論文賞受賞。

IFSCC 2023にてTop 10 Basic Research Papers受賞。

化粧品学会2024最優秀論文賞受賞

<https://www.jcss.jp/prize/2024.html>

### 柴垣 奈佳子氏

(株) 資生堂 みらい開発研究所 シニアスペシャリスト

東京大学農学生命科学研究科博士課程修了後、米国にて博士研究員としてスタンフォード大学などで植物分子生物学研究に従事。その後、大阪大学勤務を経て、2011年より化粧品会社にて、バイオテクノロジーを応用した化粧品成分の開発やスキンマイクロバイーム研究に取り組む。

2017年より株式会社資生堂グローバルイノベーションセンターに勤務し、スキンマイクロバイーム（皮膚常在菌）の基礎研究とともに、その知見に基づくスキンケア製品の開発を行っている。

<https://www.eiyo.ac.jp/news/2023/vicepresidentdialogue1st.html>

現在、みらい開発研究所 シーズ開発センター 肌有用性価値開発グループ  
シニアスペシャリスト